

「まだまだこれから」

6年 村岡 颯太

今、吉川小学校の6年生は2クラスしかありません。決して多い人数ではありませんが、男女問わず仲が良いので強いつながりがあります。友達と笑い合う毎日がこれからも続くと信じていました。

高学年となり、在校生を引っ張っていこうと楽しみにしていた5・6年生。新型コロナウイルスの対策をしながら学校生活を送ることになりました。本当であればたくさんの友達と触れ合う場があったはずですが、短時間で終わってしまった運動会や林間学校、無くなってしまったふれあいまつり。いろんな友達ともっともっと楽しみたかったことばかりです。

今までとがらっと変わった生活スタイル。変わったのは私たちだけではありません。先生方や家族のみんなも大変な思いをしている様子を近くで何度も見ってきました。

私たち6年生が元気な姿で卒業する。これが先生方や家族へ

の一番の恩返しだと思います。

コロナウイルスの終息はまだ全く見えません。これから先も短くなったり、無くなったりする行事もあるはずですが、「できない」で終わらせず、対策を考えて「できる」に変えていく。深い絆がある私たち6年生の出番です。私たちの小学校生活はまだまだこれからです。

卒業した後も在校生の皆さんが真似したくなるような6年生として。



「みんなおいで 吉川市」

6年 佐藤 しずく



未来の吉川市をテーマに描きました。なまが浮き出るようにタイルを一枚一枚色を分けて丁寧にぬりました。



市長コラム 「価値ある未来を、共に」



問合せ

政策室

☎982-5112、FAX981-5392

吉川市のワクチン接種と
自宅療養者支援

▼吉川市のワクチン接種もいよいよ最終段階。ここまでスムーズに、そしてスピーディーに接種が進み、希望する全ての方々予約が終わりを迎えようとしています▼吉川市ではまず医療従事者の方々から接種を開始し、次に年齢を細かく区切りながら高齢者の方々の接種を進めました。その後、基礎疾患をお持ちの方や介護施設などの職員や妊婦の皆さんへも優先的に接種を行い、また、障がいを持つ方々や保育等関係者の方々の早期の集団的接種へのサポートも行いました。さらに、他自治体での大型接種会場や職域での接種が可能となるよう、希望する方々には、年齢に関係無く接種券を郵送しました▼高齢者接種の終了後は、夏休み中に接種が終わるようにと12から15歳の接種を進め、次に60から64歳、その次は16から18歳というように年齢区分を交差して接種を行い、ワクチン数もしっかりと確保していたので、予約ができませんという混乱も生じませんでした▼しかし、そうした中でも、感染者数は増加。埼玉県への施設である草加保健所(管轄は草加市・三郷市・八潮市・吉川市)は業務が逼迫しており、自宅療養者数も増加していたことから、9月3日、埼玉県へ要望活動を行いました▼要望内容は、①草加保健所へ吉川市職員を応援派遣したい②現在吉川市が行っている食料配達などの自宅療養者支援の充実のために、保健所だけが把握している陽性者情報を吉川市も共有させて欲しい③自宅療養者の命を守るため、また、怪我などの他の事案に対応する救急車を確保しておくため、酸素ステーションを埼玉県東部へ早急に設置して欲しい、などであり、いずれも埼玉県からは前向きな回答をいただきました▼依然として楽観できない感染状況。今後も、市民の皆さん、関係団体の皆さんと力を合わせて対策を進めてゆきます。



ワクチン接種の様子